



公立世羅中央病院だより

No.129

熱傷(やけど)について

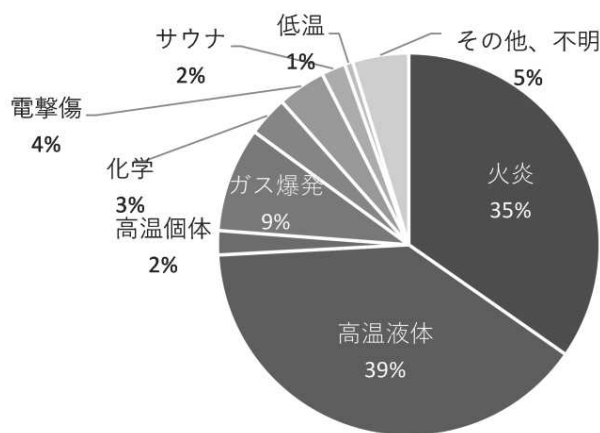
皮膚科 菅 崇暢

熱傷(やけど)とは温熱刺激による皮膚障害のことです。とても身近な病気ですが、重症になるととても大変な病気です。原因として熱湯、火災が多く、その他特殊なやけどとして化学熱傷、電撃傷などがあります。過去5年間で広島大学病院に入院した患者さん146名(0~97歳)のやけどの原因を円グラフに示します。火災によるやけどのうち仏壇などのろうそくが原因のやけど、野焼きもしくはゴミ焼却によるやけどが約4割を占めています。これらはほぼ重症になるため注意が必要です。

【やけどの重症度について】

やけどは主に範囲と深さが重症度の指標になります。やけどの深さは一般的にⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度で分類しますが、Ⅱ度に関してはさらに浅達性(浅めの)Ⅱ度、深達性(深めの)Ⅱ度に分けます。Ⅰ度、浅めのⅡ度であれば数日~2週間程度での治癒

過去5年間で広島大学病院に入院した患者さんのやけどの原因



やけどの深さ	見た目の症状
Ⅰ度熱傷	赤くなる、痛みがある
浅達性(浅めの)Ⅱ度熱傷	水ぶくれ、水ぶくれが破れた傷はピンク色で圧迫すると赤みが消える、痛みがある
深達性(深めの)Ⅱ度熱傷	水ぶくれ、水ぶくれが破れた傷は紅色~紫色で圧迫しても赤みが消えない、痛みが鈍い
Ⅲ度熱傷	黒色、褐色、白色、水ぶくれはなし、痛みがない

が見込めますが、Ⅲ度では手術が必要になります。また、深めのⅡ度、Ⅲ度では傷あとが残ります。しかし、浅めのⅡ度と深めのⅡ度を見分けるのは受傷から1週間程度経過しないとわからないことが多くあります。

範囲に関しては、Ⅱ度が体の15%以上の範囲に及ぶ場合、Ⅲ度が2%以上の範囲に及ぶ場合(中等症以上)は入院加療の1つの目安となります。さらに重症になると命にかかわることがあります。

【やけどの応急処置、治療】

やけどを受傷した際には、速やかに患部を水道水などの流水で5~15分程度冷却します。範囲が広い場合や小児の場合は低体温に注意が必要です。冷や保冷剤などでの過度な冷却は避けてください。冷却後は病院を受診してください。

【Q&A】

水ぶくれは破ったほうがいいか?

↓受傷早期では水ぶくれは破らずに治療することがあります。無理に破らずに病院を受診してください。ラップやアロエは?

↓感染を起したり、やけどが深くなったりする可能性があり、推奨されません。

消毒は?

↓通常はシャワーなどで清潔にするだけで菌の数は減りますので消毒は不要です。また、消毒は傷の治りを悪くさせることがあります。軽症のやけどであれば受傷当日から入浴やシャワーは可能です。